

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成21年9月9日

【評価実施概要】

事業所番号	0170504062
法人名	社会福祉法人 ノテ福祉会
事業所名	グループホーム「ごきげん」福住
所在地	〒062-0042 札幌市豊平区福住2条9丁目1番32号 (電話) 011-858-7070

評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成21年8月7日	評価確定日	平成21年9月9日

【情報提供票より】 (21年7月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18 年 3 月 31 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤13人, 非常勤 5人, 常勤換算 15.8人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り
	3階建ての 2～3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	110,000 円			
その他の経費(月額)	水道光熱費 25,000円			
敷金	有(110,000円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有() 有りの場合償却の有無 有 / 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 833 円			

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	0名	要介護2	8名		
要介護3	7名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 81.4歳	最低	64歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	札幌しらかば台病院 西岡南土谷歯科 明日佳クリニック
---------	----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体組織である社会福祉法人は、高齢者福祉の事業を幅広く展開し、近年は、認知症高齢者が地域の中で豊かに暮らすための事業展開に力を注いでいる。その事業所の一つとしてグループホーム「ごきげん」福住を開設し、1階に小規模多機能を併設している。札幌ドームや羊丘展望台が隣接する郊外の住宅地の中に位置し、新築の建物は、完全バリアフリーで随所に工夫が施され、スプリンクラーも設置されている。管理者は、利用者一人ひとりの思いや利用者主体の暮らしを大切にしたい個別ケアに重点を置き、職員と共に積極的に取り組んでいる。提携医療機関とは24時間対応の連携が成され、家族の安心に繋がっている。家族の来訪も多く地域に開放された今後が期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価で指摘された、地域密着型の事業所理念の策定・事業所便りを含めた家族への報告・職員の研修参加・記録や書類の整備による情報の共有化・重度化に関する指針書の作成・個人情報取り扱いの徹底などは、諸課題に取り組み改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目②	管理者は、職員から自己評価項目の聞き取りを実施し、総括会議でユニット主要メンバーと話し合い、自己評価表を纏め上げている。今後は、全職員が自己評価項目を点検し、話し合いながら職員の意識合わせに取り組み、サービスの質の向上に活かされる取り組みを期待したい。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
重点項目③	管理者は、運営推進会議の年間計画を立て、勉強会や食事会などを盛り込んだ会議を定期的開催をしている。構成メンバーに地域の方が参加をして、事業所の取り組み内容の報告、地域での事業所としての役割や協力などについての話し合いをしている。今後は、家族の方の参加も呼びかけて参加メンバーを広げ、多くの意見をもらい、サービスの質の向上の取り組みに期待したい。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
重点項目④	法人代表サービスマネジメント委員会による、利用者アンケートを年1回実施している。17項目によるアンケート内容で、利用者家族の意見や要望、苦情が記載できる仕組みになっており、その課題の改善結果も家族に報告をしている。内部、外部に苦情相談窓口を設けている。
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、利用者は、盆踊りや町内運動会などの町内会行事に参加をしている。また、餅つき等の事業所行事や生け花ボランティア、中学生の職業体験などに地域住民が訪れる機会やふれあいも増し、交流が盛んになってきている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者は、これまでの理念を見直し、一人ひとりの思いを大切にされた個別ケアと地域との関係性強化を謳った事業所独自の理念に変更をしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	21年6月に、事業所の現状に合った理念に変更し、ユニット定例会議や介護の実践の場で、理念に沿った介護についての話し合いを重ねているが、具体的ケアの統一までには至っていない。	○	管理者や職員は、理念に沿った介護の話し合いを継続し、職員間での意見の統一を図ると共に、理念にもとづいた具体的ケアが実践出来る取り組みを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、利用者は盆踊りや町内運動会などの町内会行事に参加をしている。又、餅つき等の事業所行事や生け花ボランティア、中学生の職業体験などに地域住民が訪れる機会やふれあいも増し、交流が盛んになってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員から自己評価項目の聞き取りを実施し、総括会議でユニット主要メンバーと話し合い、自己評価表を纏め上げている。又、前回の評価結果を点検し、改善に向けて職員と共に取り組んでいる。	○	自己評価は、全職員が自分の介護を振り返りながら自己評価項目を点検し、話し合いを重ねて職員の意識あわせに取り組み、サービスの質の向上に活かされる取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者は、運営推進会議の年間計画をたて、勉強会や食事会等を盛り込み、2ヶ月毎に定期開催している。構成メンバーに地域の方が参加して事業所の取り組み内容の報告や地域での役割や協力等の話し合いをしているが、家族参加の呼びかけには至っていない。	○	運営推進会議に、家族の参加を呼びかけて、事業所の取り組み内容や災害対策、地域のなかでの事業所の役割などを、家族や地域の方と共に話し合い、よりサービスの質の向上に活かす取り組みを期待したい。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	区の管理者連絡会や市が主催する研修会などに参加をしている。市の担当者には、毎月、事業所の状況報告を行い、事故報告や申請書の提出の際には、助言をもらう等協働関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	4月から事業所便りを毎月発刊し、利用者暮らしぶりや事業所の取り組み状況、運営に関するお知らせを掲載し、個別欄には担当者からの利用者情報を報告して家族に郵送をしている。電話や家族来訪時の詳細な報告、金銭出納報告も定期的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人代表サービスマネジメント委員会による、利用者アンケートを年1回実施している。17項目によるアンケート内容で、利用者家族の意見要望や苦情が記載できる仕組みで、その課題の改善結果も家族に報告している。外部内部に苦情相談窓口も設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、業務管理シートによる自己評価や資格取得による人事考課制度を採用し、職員の自己啓発を促している。又、休憩時間の確保や時間外勤務の縮小に努め、働きやすい職場づくりを行っている。職員の異動や離職の場合は、1ヶ月の引継ぎ期間を設け、利用者のダメージへの配慮に努めている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人による内部研修は、幹部養成講座受講や他グループホームでの現場実習・施設見学を実施し、研修報告やその閲覧を行っている。外部研修は、実践者研修・救命救急講習・高齢者皮膚トラブルのケア講習など、職員各自の段階に応じた研修に参加する機会を確保している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、区の管理者連絡会の実行委員として活動し、スタッフを育てるテーマを掲げ、近々、グループホームで必要な介護技術に関するスタッフ研修を企画している。他に、地域のケア連絡会や全国民間介護者事業協議会に参加し、情報交換をしている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設の小規模多機能や法人内デーサービス、デイケア利用者からの入居希望がほとんどを占めている。相談後は可能な限り本人にも見学してもらい、家族からも時間をかけてニーズや思いを聞く機会を設け、本人の不安を最小限にするよう支援をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、介護する側される側という一方的な関係にならないよう、利用者主体で、一緒に過ごし、学び、支え合う暮らしの支援を心がけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、事業所理念に掲げている「一人ひとりの思いを受けとめ・・・」の実践に向け、センター方式用紙に変更して情報収集に努め、日常の記録にも利用者の思いを記載し、職員で共有するような仕組みを整え支援しているが、情報の蓄積が充分とは言えない。	○	事業所理念の実践に向けて、利用者の思いを充分把握することは、その人らしさを大切にした個別ケアの実践には必要不可欠な課題なので、より丁寧な情報収集とその蓄積を継続して、介護計画に活かすような支援を期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	21年度から、事業所理念に掲げている個別ケアに重点を置き、利用者一人ひとりの思いや利用者主体の暮らしを反映した介護計画の作成を目指している。職員1名に利用者2名の担当制も新たに導入して、利用者や家族への関わりをより深め、介護計画に活かすよう支援している。	○	本人や家族の思いや意見を聞き、職員と共に話し合いながら、具体的な支援を計画しているが、管理者はより個別性を重点に置いた介護計画を目指しているので、事業所理念の実現に向けて、利用者の思いが反映された介護計画の立案への取り組みを期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的な見直しは、定例会議で、生活見直しシートを活用しモニタリングや評価を実施して、本人や家族と共に話し合いながら見直しをしている。利用者に、計画に対応出来ない状況が生じた場合は、その都度、話し合い見直しをしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の希望する病院やかかりつけ医への送迎介助をしている。4月から医療連携体制の指定を受けて、24時間対応の提携病院との連携体制を確保している。事業所の会議室を地域に開放する計画を進めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ほとんどの利用者が、本人や家族の希望する病院や以前からのかかりつけ医を継続受診している。利用者の急変時には、24時間対応の提携病院とも連絡をとり相談や対応をしている。歯科の訪問診療も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が重度化した場合は、本人や家族の意向を最大限尊重し、グループホームとして出来ることや法人内で出来ることを、入居時に家族本人に説明をして、重度化に関する対応指針に同意書をいただいている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、利用者のプライバシーの確保や誇りを尊重した話しかけや対応を心がけているが、全職員への徹底が充分とは言えない。個人情報の取り扱いは検討し改善されている。	○	利用者のプライバシーや尊厳を守ることに、職員間で話し合い、日々のかかわり方に留意しているが、更に、職員の意識向上を図り、全職員で日常場面での点検を実施して、徹底した事業所全体での取り組みを期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、利用者一人ひとりのペースを大切にして、その時の気分や体調を考慮し、起床・就寝・食事時間・買い物・散歩など柔軟に対応している。又、管理者は、利用者それぞれの思いに応えることが平等という考えで対応するよう職員に指導をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、その日にある食材で、利用者と相談しながら、食べたい物を一緒に調理し一連の作業も行っている。苦手な食材がある利用者には、ある食材の中で好みの物を調理し、楽しく食事が出来るよう支援している。朝食にパンを希望する利用者もおり支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、入居者の習慣や気分を大切に週2～3回の入浴支援をしている。法人内事業所の天然温泉に、週1回入浴に行き、近所の温泉も利用して楽しめるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	編み物・洋裁・書道・生け花・エレクトーン弾き語りなど、利用者の得意分野や興味のあることを支援している。洗濯物たたみや食事に関する一連の作業、ラジオ体操や棒体操なども利用者の活躍の場として支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩は日課となっており、個別の買い物や通院の帰りの寄り道などの個別支援をしている。毎月1回、開拓の村・動物園・定山溪などの遠出の外出支援をしている。又、外食支援を月2回実施している。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット玄関は自由に入出りできるように開放しており、職員の何気ない見守りの中、利用者は2階～3階を行き来している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、避難訓練を年2回実施している。設備点検や報知器を鳴らしての避難訓練も実施している。夜間発生時の組織体制は整備されているが、夜間想定での訓練は行われていない。地域の方の協力を呼びかけているが、協力体制の整備が不十分である。	○	夜間想定での避難訓練を実施して、消防署の指導の元、具体的な避難誘導策を全職員で話し合い取り決めておく必要がある。運営推進会議で、地域との協力体制の必要性を確認しているが、具体的な協力体制の整備に取り組まれることを期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内管理栄養士に、1ヶ月分の食事メニューのカロリー栄養バランスの指導を受けている。食事量や水分量に変化のある利用者には、摂取量を記載して状態に応じて対応をしている。嚥下や咀嚼の弱い利用者には、刻み食やミキサー食等の工夫をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、明るく広く清潔で、木の暖かいぬくもりが感じられる居心地よい空間となっている。台所のカウンターは利用者が作業しやすい高さに設計されており、玄関や台所には、手洗いが設置されて感染予防に配慮されている。浴槽は、3方向から介助出来るように設置され、随所に工夫が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、入り口に洗面台が設置され、洗面や歯磨きなど利用者の状況に応じて十分に活用されている。部屋によっては、大きな窓とベランダが設置され開放的である。入り口の引き戸は大きく開き車椅子対応になっており、部屋の広さも充分にあり、居心地が良い。		

※  は、重点項目。